

mination of soil-related factors controlling initial mangrove (*Rhizophora apiculata* BL.) growth in an abandoned shrimp pond. *Soil Sci. Plant Nutr.*, 54 (2) : 301-309. Matsui N, Suekuni J, Nogami M, Havanond S, Salikul P (2010) Mangrove rehabilitation dynamics and soil organic carbon changes as a result of full hydraulic restoration and re-grading of a previously intensively managed shrimp pond. *Wetlands Ecol Manage* 18 : 233-242. Matsui N (2010) Mangrove management and community participation in Thailand. In *Community and Coastal*

Zone Management, Chapter 20, 295-307

末国次朗, 野上誠, スウィット オンサムワン (2005) 空撮画像と GPS 比高データによるマングローブ (フタバナヒルギ: *Rhizophora apiculata* Bsl.) に適した生育条件の推定. 写真測量とリモートセンシング, Vol44, No.5, 42-49. Suekuni J, Hatayama K, Ongsomwang S (2007) Consideration of Effective Platform for Estimation of Above-Ground Biomass in Mangrove Plantation, Greenhouse Gas and Carbon Balances in Mangrove Coastal Ecosystems, 217-225

図書紹介

The Ecology of Tropical East Asia (東熱帯アジアの生態)

Richard T. Corlett 著

Oxford University Press, 2009 年, ISBN 9780199532469

出版から少々時間が経っているが、興味を持たれる方は多いと思うので紹介したい。本書の対象とする「東熱帯アジア」はいわゆる「東南アジア」ではなく、ASEAN 諸国からインドネシアのマルク、パプア等を除き、アンダマン・ニコバル諸島と北緯 30 度以南の中国と日本 (南西諸島) を加えた地域である。ミャンマーより西側の熱帯地域はより乾燥した地域であるのに対し、東熱帯アジアはより湿潤で森林が成立する地域であり、熱帯アジアの森林的な生物相を持つとの認識からである。

本書の特徴の一つは人為に関する記述が多いこと

で、植生や生物地理に関しても人為のもたらした植生・生物相と自然的に成立したそれらが並列的に述べられている。「本来の自然 (= 熱帯降雨林) に人為が外から関与する」という捉え方ではなく、人類の活動も自然の枠組みの中で捉えるというスタンスである。また、これまでの熱帯降雨林を扱った書物の記述が植物に偏る傾向があったのに比べ、本書は動物に関する記述が豊富であり、著者は偏らない視点を保つように努めたようだ。生物多様性保全に関しては、最後の 2 章で述べられているが、本書の本文の 3 割近い合計 61 ページを割いてかなり力を入れている。取り上げている題材や論点も、統計の信頼性、貧困、汚職、狩猟と野生動物の売買、侵入種の問題等、資金、教育、制度、生態系修復に関する踏み込んだ論議等、きわめて多義にわたっている。斬新な視点で書かれた良書としてご一読をお勧めする。
(松本和馬)